



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2008年5月現在、川崎2、横浜5、県域11 計18名で活動中!!

～ '08 9/14 神通研集会報告⑥～

☆「より良い交流を目指して
手話サークルでのコミュニケーション」

『コミュニケーションの方法1』

「そんなやり方はダメダメ」

・私はOK、あなたはダメ。自分を優先する。

『コミュニケーション方法2』

「私はそれで構いません」

・私はダメ、あなたはOK。相手を優先する。

『コミュニケーション方法3』

「私は～。あなたは～。」

・自分のことも相手のことも配慮する。

人は一人ひとり考え方が違うので、ぶつかって当然。相手を攻撃すること、自分の意見を言わないことは簡単。コミュニケーションを取り、考え、話し合い、相談することが大切。

『コミュニケーション方法3』がいつも正しいというわけではない。自分の置かれた立場、環境で変わってくる。『方法1』のような強い言い方が必要な時もある。『方法2』のように相手に任せることが大切なときもある。

～ 定例会 '09/4/25 (土) ～

神通研集会の内容について話し合いました。今年度は、混乱状態にある災害時でのより良いコミュニケーションの取り方に焦点を当てます。ろう者と聴者の災害時における感じ方の違いを確かめ合いながら、地域のサークルに持ち帰り、活用できる内容にしたいと思います。より良いコミュニケーションの取り方は、災害時だけではなく、人の集まる場所できっと役に立つと思いますよ!

【次回定例会】

5/16 (土) 10:10～12:00

県民活動サポートセンター 704

～サークル研究班メンバーのささやき～

4月に転勤がありました。3月まで勤めていた古～い建物から、みなとみらいの高層ビルへの異動。元同僚達からは「うらやまし～！」と言われましたが、現実には、なかなか仕事にも人にも慣れず悪戦苦闘の日々です。

そんな自分にとって、気分転換の場となっているのが手話サークル。手話でのよもやまばなしで元気を貰っています！サークルもその時時で姿を変えていくと思いますが、この雰囲気はずっと変わらないでほしいなと思います。

ペンネーム 青いシャツ